

作成日：2021年5月1日

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称：水性コンク グレー
整理番号：17645651
会社名：株式会社 ユニラント
担当部門：研究室
住所：東京都港区高輪 2-21-43
電話番号：03-5421-8266
FAX番号：03-5421-8470
推奨用途及び使用上の制限：塗料

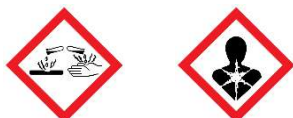
2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

健康有害性：眼に対する重篤な損害性又は眼刺激性 区分1
発がん性 区分2
特定標的臓器毒性（反復ばく露）区分1（呼吸器）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）区分2（呼吸器系）
上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない（分類対象外）か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示：

注意喚起語
危険有害性情報

危険
H318 重篤な眼の損傷
H351 発がんのおそれの疑い
H372 長期にわたる、又は反ばく露による肝臓、呼吸器の障害
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系の障害のおそれ

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

応急措置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
ばく露又は僕露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。(P308+P313)
直ちに医師に連絡すること。(P310)

**保管
廃棄**

気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。(P310)

施錠して保管すること。(P405)

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分：混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
水	30～40%	—	非該当	—	7732-18-5
黄色酸化鉄	20～30%	—	(1)-357	—	20344-49-4
カーボンブラック	10～20%	—	(5)-3328	—	1333-86-4
酸化鉄	5～10%	Fe ₂ O ₃	(1)-357	—	1309-37-1
硫酸バリウム	5～10%	BaSO ₄	(1)-89	—	7727-43-7
界面活性剤及びその他成分	5～10%	—	非公開	—	非公開
水溶性樹脂	1～5%	—	非公開	—	非公開
シリカ（非晶質）	<1%	—	(1)-548	—	7631-86-9

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚を速やかに洗浄すること。
医師の診断、手当を受けること。

眼に入った場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法

消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを

用いて消火する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予備措置 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

関係者以外は近付けない。

作業者は適切な保護具（『8.ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

適切な保護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

封じ込め及び浄化方法・機材

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

危険でなければ漏れを止める。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。

除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器の回収する。後で廃棄処理する。

乾燥した土、砂、あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。

二次災害の防止策

全ての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱い注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

排気用の換気を行うこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

酸化剤から離して保管する。

施錠して保管すること。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

消防法で規定されている容器を使用する。
 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(産衛学会)	ACGIH
カーボンブラック	—	【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵 1mg/m ³ 総粉塵 4mg/m ³	TWA 3mg/m ³ (I), STEL-
酸化鉄		【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵 1mg/m ³ 総粉塵 4mg/m ³	TWA 5mg/m ³ (R), STEL-
硫酸バリウム			TWA 5mg/m ³ (I) (E) STE L-

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
 高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

高熱取扱いで工程蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、換気装置を設置する。

呼吸器の保護具

必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。
 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

必要に応じて個人用保護手袋を使用すること

眼、顔面の保護具

目の保護具を着用すること。
 化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用すること
 安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起これる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

顔面用の保護具を着用すること。
 必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体
形状	液体
色	灰色
臭い	微臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
比重	1.58
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし

相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

1 0. 安定性及び反応性

反応性	「化学的安定性」を参照。
化学的安定性	情報なし
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

1 1. 有害性情報

急性毒性	
経口	急性毒性推定値が 5000 mg/kg超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
経皮	急性毒性推定値が 5000 mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
吸入	(気体) GHS 定義による気体ではない。 (蒸気) 急性毒性推定値が 50000ppm 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 (粉じん、ミスト) 急性毒性推定値が 12.5 mg/l 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性/刺激性	(区分 1 + 1A+1B+1C)×10+区分 2 の成分合計が濃度限界 (1%以上、10%未満) 範囲のため、区分 3 とした。 JIS Z 7252 に採用されていないため区分 3 から区分に該当しないに変更。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分該当しないから分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性/目に対する刺激性	目区分 1 の成分合計が濃度限界 (3%) 以上のため、区分 1 とした。
刺激性	
呼吸器感作性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚作性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖細胞変異原性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度 (0.1%) 以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
発がん性	区分 2 の成分が濃度限界(1%)以上のため、区分 2 とした。
生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

特定評定臓器毒性 (単回ばく露)

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分該当しないから分類できないに変更。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

区分1(呼吸器)の成分が濃度限界(10%)以上のため、区分1(呼吸器)とした。

区分1(呼吸器系)の成分が濃度限界(1%以上、10%未満)範囲のため、区分2(呼吸器系)とした。

区分1(呼吸器)脳成分が濃度限界(1%以上、10%未満)範囲のため、区分2(呼吸器)とした。

誤えん有害性

動粘性率が不明のため、分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性)	(毒性乗率×100×区分1) + (10×区分2) + 区分3の成分合計が濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
水生環境有害性 長期 (慢性)	(毒性乗率×100×区分1) + (10×区分2) + 区分3の成分合計が濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層へ有害性	データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報	関連法規の規定に従う。
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78 附属書II 及びIBCコードによる ばら積み輸送される	非該当
航空規制情報	該当しない
緊急時応急措置指針番号	: なし

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条 1 号、第 2 号別表第 9） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施工令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9） ・カーボンブラック 法令指定番号：130 （10－20%） ・酸化鉄 法令指定番号：192 （30 - 40%）
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	非該当
消防法	非危険物

1 6. その他の情報

本データシートは下記 JIS 規格に準じて作成しております。

- ・JIS Z 7252：2019 GHS に基づく化学品の分類方法
- ・JIS Z 7252：2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）

参考文献

- ・GHS 対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
- ・GHS 分類結果データベース（独）製品評価技術基盤機構（NITE）
- ・許容濃度の勧告（日本産業衛生学会 2019 年度）
- ・ACGIH（2019）

その他

- * 「安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますので、使用原料の情報変更により本データシートの情報が変更される可能性があります。
本データシートは、その製品を代表する値であり、安全や品質の保証、規格ではありません。本製品を取り扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じてください。
- * 本データシートは日本国内法を基に作成しています。本製品及び本製品を含む化学物質を輸出する際には、外為法や輸出先国の法律に従った対応を必ず行ってください。尚、ご不明な場合は弊社販売部門にお問い合わせください。